

# THE A MUSEUM

Vol.9-2 第26号 2014.9.12

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore



左から国宝「金錯銘鉄剣」(展覧会では複製を展示)、復元操作の拡大写真、「彩画職人部類」より「鍛冶」(部分)

昭和43年、行田市埼玉古墳群の稲荷山古墳<sup>れき</sup>磔<sup>かく</sup>から、鏡や挂甲<sup>けいこう</sup>・馬具類と刀剣類等の遺物が出土し、このうちの1本の剣から115文字の銘文が発見されました。これらの出土品は一括して国宝に指定され、特に銘文の刻まれた鉄剣は金錯銘鉄<sup>きんさくめいてつ</sup>剣<sup>けん</sup>と呼ばれ、日本の古代史を解明するための重要な資料となっています。

この鉄剣を、現代の匠達が約7年の歳月をかけて復元し、平成25年度に埼玉県に寄贈されました。復元された鉄剣を公開するにあたり、県内出土の飾り大刀や古墳時代の武器・武具類などと、銘文<sup>たち</sup>に登場する杖刀人<sup>じょうとうじん</sup>の姿を想定できる武人埴輪などを展示します。この展覧会が、金錯銘鉄剣の重要性をあらためて考える機会になればと考えています。

## プロローグ

### －現代の匠達の技－

金錯銘鉄剣を甦らせた現代の匠達の仕事を、道具や制作工程と工房の写真などから紹介します。

・主な展示資料

復元摸作鉄剣試作品、鍛冶関連の道具類、御物太刀(写)、御物太刀制作工程模型



作刀中の宮入法廣氏

### －描かれた匠達－

刀剣の制作に関わる絵巻や浮世絵などの絵画資料と、神社などに奉納された絵馬から、中世から近代の人々が描いた刀工達の姿を紹介します。

・主な展示資料

百人一首之内後鳥羽院、刀鍛冶絵馬（久喜市久伊豆神社）



職人歌合帖「研師」

## I 埼玉出土の飾り大刀

稲荷山古墳以外にも、埼玉県の古墳からは象嵌ぞうがんを施した大刀や剣が出土しています。普段目に触れることの少ない古墳時代の飾り大刀を、一堂に公開して、繊細な象嵌を紹介します。

・主な展示資料

銀象嵌鐔付大刀（熊谷市教育委員会）、金銅製頭椎大刀（美里町教育委員会）



青柳古墳群出土銀象嵌鐔（神川町教育委員会）

## II 甦る稲荷山鉄剣

金錯銘鉄剣の復元摸作を中心に、とぎだし研出前の複製やX線CTスキャン画像などを展示し、鉄剣について多面的な角度から紹介するとともに、熊本県の江田船山古墳出土銀錯銘大刀の複製なども比較展示します。

・主な展示資料

金錯銘鉄剣復元摸作、金錯銘鉄剣研出前複製、金錯銘鉄剣複製、江田船山古墳出土銀錯銘鉄剣複製、稲荷台1号墳出土「王賜」銘鉄剣複製、稲荷山古墳礫椰埋葬想定図

## III 古墳出土の武器・武具

稲荷山古墳からは、金錯銘鉄剣とともに多くの武

器・武具類が出土しています。このコーナーでは、剣や大刀だけではなく、各地の古墳から出土した甲冑などから、地域の王たちの権力の大きさを感じていただきたいと思います。

・主な展示資料

重要文化財衝角付冑（豊中市教育委員会）、重要文化財短甲（滋賀県教育委員会）、衝角付冑（大阪城天守閣）、素環頭大刀（世田谷区教育委員会）



重要文化財新開1号墳出土冑（滋賀県教育委員会）

#### IV 武人の姿

杖刀人の姿を想定できる資料として、武人埴輪が有名ですが、刀剣だけではなく盾や弓を持つ武装した埴輪も紹介します。また、鞆ともや鞆ゆきといった武器を表現した埴輪もあわせて展示します。

・主な展示資料

重要文化財埴輪武装男子像（東京国立博物館）  
大刀形埴輪（埼玉県教育委員会）

#### エピローグ

##### ー埼玉古墳群へ行こうー

埼玉古墳群は史跡としてだけではなく、花と緑に囲まれた都市公園としても多くの県民等に親しまれ、1500年前の古墳と現代を繋ぐ巨大な歴史空間となっています。普段見ることの少ない、調査・整備の記録や測量のデータなどを紹介します。

・主な展示資料

触れる鉄剣、3D レーザースキャナーで作成した稲荷山古墳CG、埼玉古墳群の古写真（以上、県立さきたま史跡の博物館）



大塚古墳群出土武人埴輪（熊谷市教育委員会）

※所蔵先を明記していない資料は全て当館蔵

（展示担当 井上尚明）



平成26年度は埼玉県で最初の民権結社であるしちめいしや七名社の結成（明治8／1875年2月）から140年、近代における最大の民衆蜂起である秩父事件（明治17／1884年10月）から130年を数える、自由民権運動の歴史にとって節目の年です。これを機に、平成27年1月2日から開催する冬の企画展は「埼玉の自由民権」と題し、当館で初めて自由民権運動をテーマとしたものとなります。

自由民権運動を知らない方はいないでしょう。歴史教科書に必ず出てくる用語のひとつです。しかし、自由民権運動とはいったいどんなものだったか、どういう歴史上の意味を持っていたか、そして埼玉県での展開はどうだったか……こうした事柄は意外と知られていないのではないのでしょうか。

この企画展では明治維新による社会の変化を紹介するところから始まり、自由民権運動の全国的展開、自由民権運動の埼玉県での広がり、秩父を中心とした農民の運動と全国的組織である自由党の運動が結びついて発生した秩父事件、そしてそうした自由民権運動の経験の後世への継承を、県内外の実物資料や古文書によってわかりやすく紹介していく予定です。

自由民権運動について一言で説明すれば、明治維新を主導した薩長藩閥をはじめとする一部の有力者のみによって近代国家の建設が進められていた時代に、在野から憲法の制定、公選議会の設置、地方自治の確立などを目標に展開された全国的な運動だったといえます。憲法に基づく国民主権の政体を追求したという意味で、現在の立憲民主主義の源流として位置づけられます。全ての歴史的なできごとと同様、現在の私たちの暮らしに直接つながるものとしての自由民権運動を、今、改めて考えていきたいと思えます。

会期中には当館学芸員による歴史民俗講座、展示解説、映画上映会など様々なアプローチで自由民権運動についての知識を深めることができる関

連事業を計画中です。詳しくは、当館ウェブサイトやチラシなどで告知いたしますのでご期待下さい。

それでは、現在準備している企画展の内容を紹介していきます。

## プロローグ 埼玉県の誕生

企画展は埼玉県が誕生する時点からスタートします。明治維新は社会をどのように変化させたのか、そして自由民権運動はどのような社会状況のなかでたちあがっていくのかをご紹介します。

### I たちあがる自由民権

自由民権運動は明治7（1874）年、先年政府の内紛によって下野した士族によって政府に提出された「民撰議院設立建白書」をその嚆矢とします。藩閥官僚の専制の弊害を除くため、公選議会を設置し、納税者に参政権を付与することを求めるものでした。士族を中心に開始された運動は、近世から地域社会を担った豪農名望家や都市知識人にも受容されていきます。各地で運動のための結社が作られ、その数は2,000を超えと言われます。こうした結社を中心に学習、討論や演説会が行われました。そうした運動をもとに、憲法制定を控え、約100の独自の憲法草案が作られました。このなかで最も有名なもののひとつが「日本帝国憲法（五日市憲法草案）」（個人蔵・あきる野市中央図書館保管 東京都指定有形文化財）でしょう。そこには極めて民主主義的な内容が含まれ、現在の日本国憲法に通じる精神が明治期から育まれていたことがわかります。本章では、この五日市憲法草案をはじめとした著名な資料を含めて、自由民権運動の全国的展開を紹介します。

またここで注目いただきたいのは、当時の人々の「自由」への熱い思いです。それは、民権家の集会で使用されたという「自由亭の岡持」（個人蔵）、八王子の民権家が刺繍した「自由の車人形」（八王

子市教育委員会蔵) や、本県で結社が結成されたときに製作された「自由のさかずき」(当館蔵)【図版1】などに現れています。



図版1 自由のさかずき(当館蔵)

## II 埼玉の民権結社と政党

自由民権運動の動きは、私たちの埼玉県でも広がりを見せます。

明治8(1875)年、熊谷周辺の7人の若き名望家たちは、毎月集合し、意見交換を行い、拠金によって書籍を購入、議論するための団体である七名社を結成します。これが埼玉県における最初の民権結社です【図版2】。彼らは議員や地方官僚として政官界で活躍していくこととなります。



図版2 七名社記念写真(大正8年撮影)  
(埼玉県立文書館蔵 中村(宏)家文書 No.254)

七名社に続き、のちに代議士として活躍する堀越寛介らを中心に羽生で結成された通見社<sup>つうけんしゃ</sup>、行田の行成社<sup>ぎょうせいしゃ</sup>など、県内で、少なくとも45の結社の存在が確認されています。県内各地の人々はこうした結社に集い、新たな政治についての学習を行い、全国的政党である自由党や立憲改進黨とのつながりを形成しながら地域政治をリードしていきます。

こうした県内の民権結社の活動を県立文書館が収蔵する古文書等で紹介します。

## III 秩父事件

埼玉県における自由民権運動について考えるとき、明治17(1884)年10月に発生した秩父事件を紹介する必要があります。

明治14(1881)年に大蔵卿となった松方正義は、西南戦争の軍費のための紙幣増発によるインフレを抑制するため、紙幣整理を行います。これにより米価・生糸価は下落し、秩父など養蚕に頼る地域では、家産の一切を処分しなければならないほど困窮する農家が続出しました。この頃、地域に支持を拡大しようとしていた自由党の運動と困窮した農民が結びつき、困民党<sup>こんみんとう</sup>と呼ばれる集団を組織、負債減免の運動を起こしますが、郡役所や高利貸は受け容れず、困民党勢は武装蜂起の道をたどります。秩父事件に参加した農民は8,000人とも10,000人とも言われました。

ここでは困民党勢の動きを今に伝える実物資料や、事件の過程を記録した公文書、また地域で事件のようすを記録した古文書【図版3】等によって、秩父事件の実像を描きだします。



図版3 埼玉県秩父郡暴徒概略 矢尾店日記簿之写  
(株式会社矢尾百貨店蔵)

## エピローグ

こうした自由民権運動の経験がその後の国政や地域政治の場でどのように生かされ、またその記憶が地域や学界で現在までどのように継承されているのかを紹介し、企画展のエピローグとします。

(展示担当 佐藤美弥)

# 農耕図絵馬をどう見るか？

寺社に奉納されている絵馬には、興味深いものがたくさんあります。ここで取り上げるのは、農耕図のうこうず絵馬とか四季耕作図絵馬と呼ばれる、一連の稲作の様子を描いた大絵馬についてです。春から秋までの農作業をひとつおり描いたものが多いのですが、田植を中心とした春の作業だけ、あるいは収穫後の秋の作業だけを描いたものもあります。

これまでに埼玉県内で確認した農耕図絵馬は、次の9点です。

- ①蕨市錦町・水深観音堂（嘉永2年）
- ②上尾市原市・金毘羅神社（年号不詳）
- ③小川町角山・八幡神社（明治2年）
- ④吉見町御所・安楽寺（寛政12年）
- ⑤加須市新川通・神武天王社（明治13年）
- ⑥鴻巣市北根・久伊豆神社（明治9年）
- ⑦吉川市木売・和井田家（年号不詳）
- ⑧久喜市間鎌・稻荷社（嘉永3年）
- ⑨同市北広島・地藏堂（明治13年）

ところで、神社の祭礼や年中行事として、御田植おたうえ神事とか庭田植にわたうえと呼ぶ行事が全国各地にあり、県内でも秩父地方の2か所で今でも行われています。これらは「予祝儀礼よしゆくぎれい」と呼ばれ、春先に稲作の一連の作業を模擬的に行うことで秋の豊作を期待するものです。

では、農耕図絵馬の場合はどうでしょうか。絵馬の調査報告書などには、農耕図絵馬は予祝のために奉納されたという記述がよく見受けられます。しかし、絵馬の銘文からその絵馬が奉納された季節を見ると、9月以降のものが多くを占めています。豊作を祈って春先に奉納されたわけではなく、台風の時期も無事過ぎて豊作まちがいなしとなったころ、あるいは収穫が済んでから豊作感謝の意をこめて奉納したものと思われる。

次に、絵馬に描かれた農作業そのものを見てみましょう。これも調査報告書などでは、その地域のかつての農作業の様子を知ることができると解説されていることがよくあります。しかし、四季耕作図というのは、江戸時代以降屏風や襖絵の画題として、著名な絵師によって数多く描かれており、その源流は中国の耕織図こうしよくずにあるとされています。

絵馬に描かれた農作業も、単純にそれが奉納され

た土地の様子を表したものと断定するわけにはいきません。過去に描かれた耕作図を模倣したものや、版本として出回っている農書などから写し取ったものもあります。県内の絵馬を見ても、④の絵馬は田植、稲刈り、脱穀などすべての作業が『農業全書』という元禄10年刊行の農書に掲載されている図を模倣したものであり、また③と⑧の絵馬にもやはり『農業全書』からの利用が見られます。この本は西日本における農業を取り上げたものなので、耕作には牛が使われている様子が描かれているのですが、③では馬に耕作させることで、地元の人たちが違和感を抱かないような絵になっています。

もちろん、その土地での農作業の様子を、道具に至るまで忠実に描いた絵馬もあるので、広い視野で見なければならぬと感じています。

（学習支援担当 大久根 茂）



（上）吉見町安楽寺の絵馬に描かれた脱穀作業

（下）『農業全書』の挿絵にある脱穀作業（農山漁村文化協会発行『日本農書全集』より）

# コーナー展示 ～雑兵の姿～

6月24日から8月31日まで、常設展示室第5室で、「雑兵の姿」というコーナー展示を開催しました。雑兵と聞くと、足軽をよく思い浮かべられると思いますが、足軽のほかに招集された非戦闘員としての農民も含めて雑兵と呼んでいます。この展示では、雑兵が合戦時に着用した足軽胴・陣笠・差物（旗）を中心に、戦支度の様子を紹介しました。

合戦時に自前で甲冑を用意できなかった者は、主君が貸し与えた「備具足」を着用して合戦に臨んでいました。その備具足には、敵味方を判別するために合印が描かれています。描かれている模様は、主君の家紋だけではなく、写真のように様々な特徴のある図様があります。今回の展示では、雑兵の戦の様子だけではなく、この合印にも注目して雑兵の姿を紹介しました。

合印は、先ほど述べたように敵味方を判別するために描かれたもので、足軽胴・陣笠の前後にあります。展示した資料では、足軽胴の「黒漆塗二枚桶側胴（尻合わせ三扇文〈高崎扇〉）」（写真下）や陣笠の「黒漆塗革製陣笠（揚羽蝶）」（写真右上）には凝った模様を、「黒漆塗鉄製陣笠（変わり田の字）」には、「田」の字を、下半分を長方形にして斜めにした一風変わった模様を見つけることができます。



黒漆塗革製陣笠（揚羽蝶）

差物は、袖につける小さな袖印、背中に挿す旗指、幟のような大きな旗指があり、いずれも目立つように作られています。差物も、合印と同様に敵味方を判別するために用いられ、中には武将の威光を示すものもありました。今回展示した差物（三巴）は、紺の布地に金で大きく三つの巴が描かれたシンプルなもの、遠くから見ても目につきやすくなっています。

今回のコーナー展示では、合戦で活躍した雑兵の戦支度の様子を展示し、その中で足軽胴・陣笠・差物に描かれた図様を紹介しました。雑兵がこれらを身に着けた合戦の様子を思い浮かべていただけたなら幸いです。

（展示担当 野北啓介）



黒漆塗二枚桶側胴（尻合わせ三扇文〈高崎扇〉）



展示風景

# THE AMUSEUM



## 歴史と民俗の博物館イベント情報(10月～1月)



埼玉県のマスコット  
コマン

- 特別展「甦る鉄剣」 平成26年10月11日(土)～11月24日(月)
- 企画展「埼玉の自由民権」 平成27年1月2日(金)～2月15日(日)

### 10月

- 11日(土) 特別展「甦る鉄剣」オープン  
特別展展示解説
- 13日(月) 特別展展示解説
- 17日(金) 江戸組紐ロングネックレス作り
- 18日(土) 歴史民俗講座  
「東国経営を担った古代豪族」  
十二単・小袿の着装体験
- 25日(土) 特別展展示解説、ペーゴマ教室

### 11月

- 1日(土) 第4回ミュージアムフォーラム  
～鉄と銅～
- 3日(月) 特別展展示解説
- 8日(土) 特別展記念講演会Ⅰ「飾り大刀の世界」
- 9日(日) お雛子体験教室
- 14日(金) けん玉教室  
復元鉄剣トークセッション

### 11月

- 15日(土) 特別展記念講演会Ⅱ「日本列島における古墳時代武装の特色と武器武具の社会的役割」
- 22日(土) 埼玉古墳群見学会  
(於さきたま史跡の博物館、埼玉古墳群)
- 24日(月) 特別展展示解説

### 12月

- 6日(土) 十二単・小袿と男子装束の着装体験
- 8日(月)・9日(火) 館内消毒に伴う臨時休館
- 13日(土) 歴史民俗講座  
「博物館資料はこうして守る」

### 1月

- 2日(金) 企画展「埼玉の自由民権」オープン
- 10日(土) 十二単・小袿の着装体験
- 24日(土) 歴史民俗講座  
「埼玉県における自由民権運動」  
ミニ銅鏡作り

※毎週土曜日には、博物館裏方探検隊を開催!!

### ◆博物館への資料寄贈をお考えの方へ◆

まずお電話で御一報ください。TEL:048-645-8171 (資料調査・活用担当)  
詳しくはホームページを御覧ください。http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/?page\_id=261

### 今後の展覧会

企画展

# 氷川神社

# と大宮公園

平成27年  
3月21日(土)～  
5月10日(日)



交通機関  
東武アーバンパークライン(野田線)  
大宮公園駅下車徒歩5分

### 埼玉県立 歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore (編集発行)  
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地  
TEL. 048-641-0890 (管理)  
048-645-8171 (学芸)  
FAX. 048-640-1964  
http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより  
Vol.9-2 (通巻)第26号  
2014年9月12日発行